

「生物多様性」に関するアンケート実施報告

三重県では、県内の生物多様性の保全と持続可能な利用を目的に生物多様性地域戦略（基本計画）を策定中です。この地域戦略の策定の参考とするため、「生物多様性」に関するアンケートを実施いたしました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターのみなさまにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおり報告します。

同アンケートの内容及び回答集計については、e-モニターのホームページ（下記リンク先）をご覧ください。

<http://www.e-kocho.pref.mie.jp/monitor/index.html?a=top:result&id=86>

アンケート概要

アンケート実施期間

平成23年2月1日から平成23年2月16日まで

対象者数 1,367人

回答者数 837人

回答率 61%

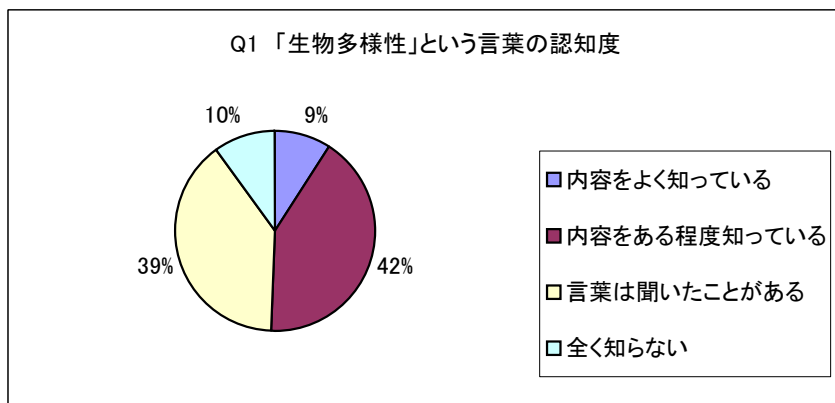
回答者属性

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
回答者数	64	180	232	182	129	50
回答率	7.6	21.5	27.7	21.7	9.4	5.9

アンケート結果を受けて

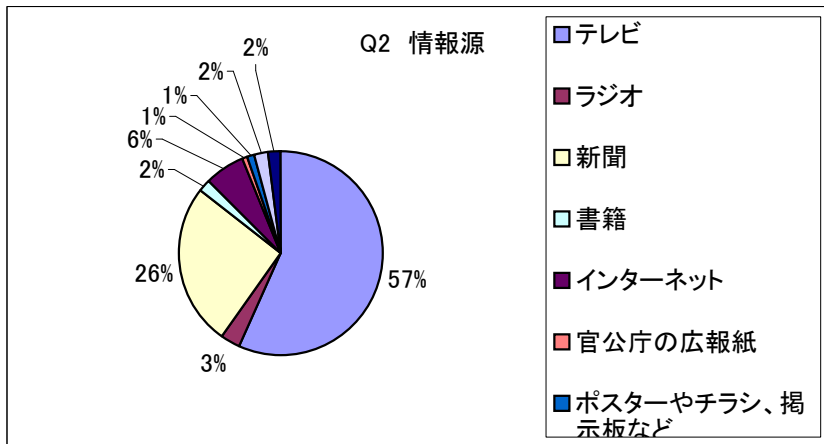
Q1 「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」という言葉を聞いたところ、「内容をよく知っている」は9%、「ある程度知っている」は42%と半数となっています。



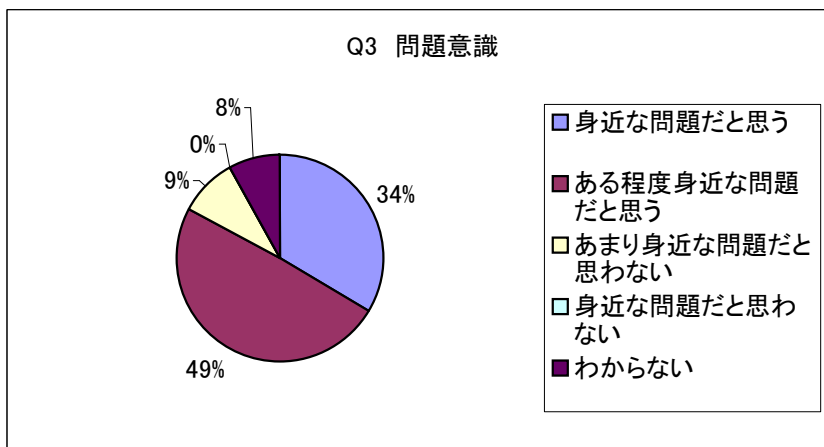
Q2 情報源

Q1で「内容をよく知っている」、「ある程度知っている」と答えた方に、どこから情報を得られたか聞いたところ、テレビが55%、新聞が25%、インターネットが6%となっています。



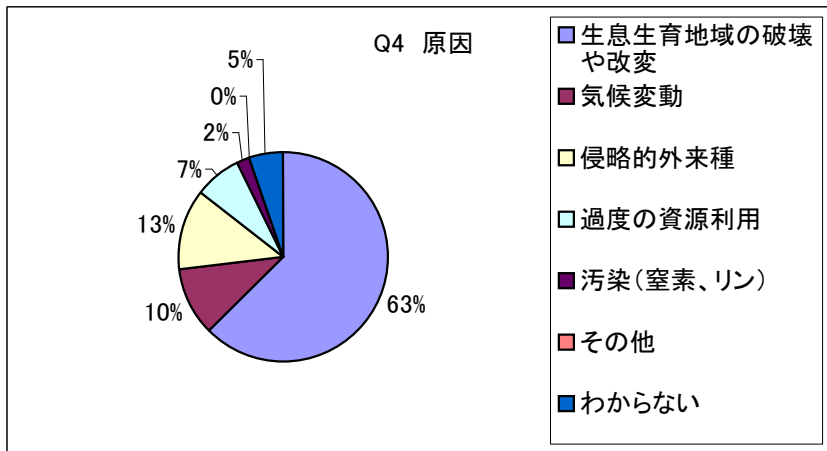
Q3 問題意識

Q1で「内容をよく知っている」、「ある程度知っている」と答えた方に、生物多様性が身近な問題であると思うか聞いたところ、「身近な問題である」33%、「ある程度身近な問題である」48%となっています。



Q4 原因

Q1で「内容をよく知っている」、「ある程度知っている」と答えた方に、生物多様性を損失させる原因について、最も重要だと考える原因を聞いたところ、「生育生息地域の破壊や改変」60%、「侵略的外来種」12%となっています。



Q5 施策

Q1で「内容をよく知っている」、「ある程度知っている」と答えた方に、生物多様性の保全等の対策について、重要であると考えられる対策を聞いたところ、「外来種による影響の防止」17%、「地球温暖化の防止」15%、「漁業資源、木材資源など生物資源の乱獲防止」12%、「動植物種の生息生育地の開発防止」12%、「山林や草地の手入れ」9%、「里山の利用と管理」8%となっています。この結果をもとに、各主体が生物多様性の保全等に向けての方向性を考える際の参考にしたいと考えています。

そのほか「生物多様性」という言葉から思い浮かべることを自由記述していただきましたところ、「生態系」、「自然」、「共存・共生」、「環境」、「自然」、「遺伝子組み換え」、「人間のエゴ」、「絶滅」、「外来種」、「COP10」等のキーワードでの記述が多くありました。

貴重なご意見は地域戦略策定の参考とさせていただきます。